

大人が絵本を 第68回 子どもたちと語り



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

緊急事態宣言でピークアウトはいかに?!

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、安倍首相は政府対策本部の会合で7都府県を対象に、法律に基づく緊急事態宣言を年度始めの4月7日に発令、翌週には全国に拡大されました。

世界中がオリンピック年の幕開けに期待と希望を膨らませた2020年のニューイヤーでしたが、中国武漢で発生した新型コロナウイルスが瞬く間に世界中に感染すると、ヒトvsウイルスの2020となってしまいました。日本では、3月早々に全ての学校が臨時休業となり、企業は時差出勤やテレワークの対策を取ったのですが、月末31日に感染者が2千人を突破すると同時に、感染者の増加は加速し、医療崩壊の危機も懸念されるほど非常事態となってしまいました。本来なら、入学・進級、入社など、お祝いモードに湧き、フレッシュな初々しい姿に新しい季節を感じる「喜びの春」が奪われてしまったのです。

緊急事態宣言以前の学校休校策より、日々の生活は一変してしまい、大人だけでなく、乳児を含む子どもたちに及ぼすストレスや虐待も問題視されるようになりました¹⁾。そんなときこそ、読書やボードゲームで、子どもと大人が笑顔になる時間を持つことは、精神衛生の観点から推奨されます。

トキメク新刊絵本を紹介しましょう

このような非常事態が予測される前の「日常」から、創作活動は絵本作家さんの溢れる才能によって鋭意、続けられており、感染が拡大していく中でも新しい絵本は書店に姿を現しました。

大人にも子どもにも大人気の、「しごとば」シリーズ待望の新刊が2月22日に発売されたことは、暗い

ニュースが続く中で、久しぶりにワクワクときめく出会いとなりました。6作目となる新作のタイトルは『やっぱりしごとば』で、プロサッカー選手や医師、ユニークなところでは恐竜学者らが紹介されています。

左『しごとば』
右『やっぱりしごとば』
鈴木のりたけ 作
(プロンズ新社)



この新作と合わせた「しごとば」6冊セットを並べると、全52職種に上り、絵本ながらに圧巻の職業図鑑ともなります。

「しごとば」の楽しみ方

2009年に第1作を刊行した「しごとば」シリーズは昨年、10周年を迎え、累計販売部数30万部を超えました。その1作目で採り上げられた注目度の高い9種の職業のひとつが、「歯医者」であることをご存知でしたでしょうか。

「しごとば」シリーズが、「図鑑」よりも「絵本」色が強いのは、「ただ仕事場や、仕事の手順を見せるのではなく、その仕事に就いている方の人となりがあり出されるような絵本を心掛けた」と話す鈴木のりたけ氏の制作意図を伺うと納得です²⁾。作者が、「ものができたりサービスが行われたりするだけが職業ではなくて、そこに人を介在して、いろんな思いも絡まってくるということを意識した²⁾」と述べているとおり、「歯医者」へ虫歯治療に来るのは、ひとつ前の職業で紹介された「革職人」の女性と息子ですし、男児の虫歯を治療した「歯医者」さんは、「パティシエ」の作ったケーキを買いに行くのです。

文字では表現されていないこのつながりは、「こ

手にするときは！

合おう！「はたらく」

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ***

*** 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

とば」中心に読みがちな大人だと見落とし兼ねない仕掛けでしょう。作者がキーワードとした「つながり」を意識すると、「どの仕事も他の人の役に立っているんだ」と感じられ、お仕事絵本に留まらず、つながり探し、絵の中に潜ませたというダジャレ探しなど、遊び心満載の広がりをもつ新しい切口の絵本と言えます。この観点こそ、子どもたちが「仕事」を探索するときだけでなく、暮らしの中で関わる様々な働く大人たちへの興味・関心となり、働く人々を敬う心も自然と芽生えてくるものでしょう。

おおきくなったら、なにになる？

ビブリオおはなし会で、『おおきくなったら なになになる？』を読むと、子どもたちから「Sちゃんはプリキュアになるんだよ」「ソフィアになる～」「ウルトラマン!!」「ぼくはトーマス」など、かわいらしい回答が聞かれるのは3～4歳児さんですが、就学前の幼児や小学生になると、身の回りの大好きな大人や、実在のヒーローに憧れを抱いては、夢や目標を持つようになります。

『おおきくなったら なになになる？』
フランソワーズ 作
なかがわちひろ 訳
(偕成社)



第一生命保険株式会社が平成元年より行っている「大人になったらなりたいもの」調査によると、平成最後の30回調査第1位は、男の子がサッカー選手、女の子は食べ物やさんと報告されました。また、平成の30年間を振り返ると、食べ物やさんは1997 (H9) 年から22年間、女兒の不動のトップで、なかでも「パティシエ」が大人気ようです。続く2位以下には、幼稚園

の先生、看護師、学校の先生が定番人気です³⁾。

一方、男の子は野球選手とサッカー選手の2強が長らく続き、社会の趨勢によって1位と2位が入れ替わっているようです。時代の大きな影響は他にも見られ、日本人がノーベル賞を受賞した年は、スポーツ2強を抜いて、学者・博士が1位になっているのです³⁾。

ヒーロー・ヒロインは、すぐそこに！

図書館学における「読書の発達段階」では、子どもの人格性形成の過程における発達課題の展開と並行している「読書興味の発達」において、6～8歳頃を「寓話期」と位置づけ、実在の偉人英雄の幼年時代のエピソードに望ましい行動の手本となる逸話を好むとされています。また、8～10歳頃の「童話期」には、英雄物語や初歩科学書に興味を持つとされているのですが、子どもたちのなりたい職業をみたとき、人格性形成の過程における発達課題の展開と並行した「読書興味」の所以が明白なのです⁴⁾。

「〇〇選手のように格好いいサッカー選手になりたい」「病気のときに優しくしてくれた看護師さんになりたい」など、子どもたちは身近な大人や仕事に触れて、感情を揺さぶられたとき、興味をもち、やがて憧れになっていくようです。

大人の立場から裏返してみると、子どもの興味・関心を高め、社会的視野を広げるために、普段は目につきにくい仕事の存在を知らせる役目があります。子どもたちの知らないところで、自分を大きく支えてくれている職業人の存在を知って、感謝の気持ちを持つことも大切です。それは家族だけではない、人間の大きなつながりによって生かされていることを知り、自分も誰かの役に立つ人になりたいと



いう夢を持つ第一歩になるのです。

日常では見ることのないものを知らせるツール、それが絵本であり、図鑑であることは周知のとおりです。そのツールを家庭でも医療現場でも、どんどん活用していきましょう。ご両親の職業と、大まかな仕事内容を理解して、お父さんやお母さんがどんな風に世の中の役に立っているのかを他者に語れる子どもであってほしいものです。絵本と図鑑は、大人と子どもが頼りになる縁の下の大きな力なのです。

当たり前って、どういうことだろう？

現代の子どもたちの日常から遠のいてしまった職業に、農林水産業があげられます。古来、縄文時代は狩猟、弥生時代になって稲作が始まったとされてきた歴史に、「縄文時代から農耕が始まっていた」との新事実が発表されたのは2015年のことですが、発祥時代はともあれ、日本人は農耕民族です⁵⁾。それは脈々と受け継がれ、職業としての農家でなくても、生計の一部として自家用畑に野菜を栽培し、鶏を飼育する自給自足が、新しい住宅形態の団地が出現するまでの昭和時代には当たり前の暮らしでした。2～3世代家族が一体となって働く姿でもあり、子どもたちも野菜を収穫し、朝は鶏の卵を取って自らの食料を得ていたのです。

しかしながら現代の子どもたちは、この体験をする条件が都市型生活によってなくなってしまいました。都市化の発達は、体験だけでなく目にする機会も奪ってしまっています。衣食住環境が、職人の労力の上にあることを知らずに、「お店に行けば買えるもの」と簡単に捉えている子どもたちは多いでしょう。私たちの生活基盤を支えてくれる仕事に従事する人がいることを知ると、当たり前ではない生活に、「ありがとう」の気持ちが備わります。

いただきます! ごちそうさま! ありがとう!

乳児が一番に認識する形の丸と、適度な刺激を受け

るため好む赤色で構成された赤ちゃん絵本に必須のアイテムと言えば、りんごです。視覚にも味覚にも乳幼児の大好きなりんごの生長過程と、農家の仕事の濃やかさや手間ひまが写真で描かれた『りんごみのった』(ひさかたチャイルド)を読むと、りんご1個の重みと農家の人々に対する敬意が沸々と湧き起こります。

『おじいちゃんちのたうえ』
さこもみ作
(講談社)



日本人の主食であるご飯をいただく前に、感謝の「いただきます」が口を衝いて出るようになる一冊は、『おじいちゃんちのたうえ』です。稲作農家の祖父母の田植えをお手伝いに行く子ども目線のお話です。作者はさこもみ氏ですが、実はご子息が小学生時代に書いた作文を手直したストーリーに、さこ氏のイラストを添えて出来上がった絵本であることが奥付ページに記されています⁶⁾。重い苗を一輪車で運んだり、手作業で苗を植えたりと農作業の苦労を体験して、その上でおじいちゃんとおばあちゃんのお米で作ったおむすびをみんなで食べる姿から、農家さんへの「ごちそうさま」と「ありがとう」が育まれることでしょう。

疑似「お仕事体験」してみようよ

子どもたちの大好きな果物、それから生きる上で必須の主食とくれば、次に身近なものは液体食料であるミルク、そう、牛乳でしょう。

埼玉県にある家族経営の牧場を舞台にした写真絵本『はくじょうにきてね』(ポプラ社)の主人公は、5歳の女の子です。働くパパの姿を見ながら、お兄ちゃんと一緒に乳牛の飼育をお手伝いします。牛は、牛乳という飲み物だけではなく、お肉となって、人間の栄養素となること、そんな牛を飼育する人がいてはじめて、私たちの食卓に届けられていること

を実感できます。決して、当たり前に出てくる食べ物ではないのです。

日常、見ることのない「市場」も、「食」を支える仕事として子どもたちに伝えておきたいものです。魚市場の中で「仲卸」といわれる仕事に従事している家族の一日を子どもの視点から描いた『うおいちば』（福音館書店）は、銅版画家の田中清代氏のイラストが生き生きとした魚を映し出しています。家族のお仕事見学をする女の子の姿を通して、両親と祖父母に対する尊敬と感謝の念が見えてきます。



What? Why? How?

私たちの生命活動を支える衣服も、お店に行けば当たり前にあるものではありません。お店に並ぶまでに、職人の技巧による繊細な作業が施されていることを知って、お洋服や下着にも「ありがとう」の心を持ってもらいたいものです。子どもたちの視界に入ってくるアパレル業界へ憧れを抱く子もいますが、さて、縫製する生地がどうやって作られているのか、疑問に思う子どもがどのくらいいるのでしょうか。

『ふくはなにからできてるの?』とした疑問がズバリ、タイトルになった絵本は、京都工芸繊維大学教授の佐藤哲也氏が描いた科学絵本です。お仕事絵本ではありませんが、身近に手に入る生物の原料から繊維を取り出し、毛を梳いて糸に紡ぎ、その糸を染めて布を織って仕立てられていく昔からの製造工程それぞれには、人間の働く姿が映し出されているのです。機械化の現代といえども、私たちの手元に届くまでに専門職人の技が重ねられているという発見は、流行や欲求にとらわれない生き方の模索ともなるでしょう。

衣服は購入するものと捉えている現代の子どもたちの認識を変え、縫製や染色の仕事への興味喚起も期待したいものです。他にも、草木染染色家の暮らしを追った『糸に染まる季節』（岩崎書店）、養蚕農家のドキュメント『お蚕さんから糸と綿と』（アリス館）は、服だけでなく、暮らしや生命を支える資源に

目を向けるきっかけとなる写真絵本です。



働くとは。生きるとは。幸せとは。

「人は昔から、食べるために、生きるために、はたらいてきた。でも、はたらくのは、食べるためだけじゃない……。世界をめぐるって、そう思うようになった。」と述べるのは、世界の紛争地や辺境の地を撮影するフォトジャーナリスト長倉洋海氏です⁷⁾。長倉氏が世界中を巡って撮影した写真絵本『はたらく』では、タイトル通り働く子どもたちの様子が映し出されています。貧困と児童労働をテーマとした絵本は、以前からありますが、それらとは一線を画した作品になっています。

働くとはどういうことなのか、生きること、幸せとは何かを大人と子どもが真っ向から見つめ直す一冊です。衣食住と同じように、目に見えている世界だけがすべてではなく、見えていないところで働いている力を感じて、自分の生き方を考えるきっかけづくりができるでしょう。長倉氏は、なおも語ります。「子どもたちは たくさんの汗と涙を流し、悲しいこともいっぱい経験して、大人になっていく。」⁷⁾突然襲ってきたウイルスによって、大人も子どもも窮地に立たされています。子どもたちが豊かな感性をもった大人になれるよう、今、心身のサポートをしていきたいものです。



文献

- 1) 小橋孝介：新型コロナウイルス感染症～子どものSOSと大人のストレスに対応を 医療界を読み解く [識者の眼]、日本医事新報web <https://www.jmedj.co.jp> 2020/03/30
- 2) KUMON：ミーテカフェインタビューvol.54 絵本作家・鈴木のりたけさん、mi:te [ミーテ] HP <https://mi.te.kumon.ne.jp>
- 3) 第一生命保険株式会社：“平成最後”の「大人にならなりたいもの」特別企画！、第一生命News Release <https://www.dai-ichi-life.co.jp> 2019/03/08
- 4) 坂本一郎、他 編：新読書指導事典、第一法規出版、東京、pp.118-123、1981.
- 5) 小畑弘己：タネをまく縄文人、吉川弘文館、東京、p.217、2015.
- 6) さこもみ：おじいちゃんちのたうえ、講談社、東京、2011.
- 7) 長倉洋海：はたらく、アリス館、東京、p.3、29、2017.